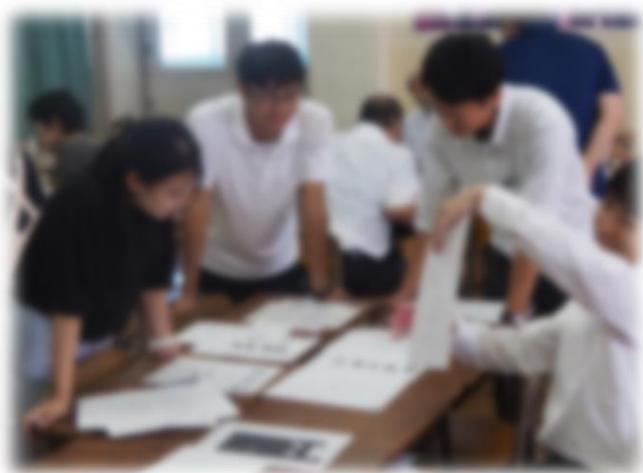


# 持続可能な不登校生徒及び不登校傾向生徒支援の仕組み化へ向けた取組内容の検証



## 八王子市立第七中学校



### 「不登校生徒へのサポート」

### 「不登校生徒への3つのサポート」

本校の不登校生徒の人数は全校生徒の約10%である。その要因はさまざまであるが、不登校傾向生徒も対象とした個別の指導によるサポートが必要である。

第七中学校では校内委員会を中心に以下のサポートについて研究を進めた。

- ① 人間関係の悩みや家庭状況に起因する生徒への心理サポート
- ② 学習の遅れから不登校に至る生徒への学習サポート
- ③ 自立した社会人になるために必要なコミュニケーション力や経験値を高める体験サポート



八王子市立第七中学校

<9年間で育てたい児童・生徒像>  
「知(確かな学力)・徳(豊かな心)・体(健やかな体)の調和のとれた児童・生徒」

学校 HP



# 研究主題を実現するための取組

## ■心理サポート

人間関係の悩みや家庭状況に起因する生徒に対して、以下のような心理サポートを行った。

- ・全生徒を対象とし、担任との二者面談を実施した。
- ・QUの結果からアセスメントを行い、支援が必要な生徒について教員で共有した。
- ・不登校生徒を出さないための取組として、リレーションのある学級づくり・学級経営について校内研修を行った。
- ・2学年で構成的グループエンカウンターの実践を試み、学校や学級に対して安心感・所属感をもたせる取組を行った。



### <(二者面談)生徒の反応>

悩みを言う機会があまりなかった。しかし、相談できて気持ちが軽くなった。

### <教員から見たクラスの様子>

クラスメイトに認めてもらう活動を通して、「うれしい」「安心した」「自信がもてた」と感じた生徒が多かった。



## ■学習サポート

学習の遅れから不登校に至る生徒に対して、以下のような学習サポートを行った。

登校支援教室「STEP」、スペシャルサポートルーム「SSR」を開室した。「STEP」は週2日、静かに読書や自習を行う。「SSR」は週2日、相談やゲーム、自習など自由に過ごす。

また、はちビバに協力を依頼し、ギターの指導を個別に行っていた。

## ■体験サポート

自立した社会人になるために必要なコミュニケーション力や経験値を高めるために、体験サポートを行った。

VR 学習システムを活用し、VR 内の空間に絵を描いたり、シヨベルカーの運転を体験したりした。今後は職業体験やソーシャルスキルトレーニング等を取り入れ、社会に踏み出す支援や技能を身に付け、自信につなげる手助けをしていく。



### 体験した生徒の感想

気付いたこと・感じたこと・感想	また体験するとしたら、どんなことをしてみたいか
<ul style="list-style-type: none"><li>・イメージしていたよりすごかった。</li><li>・不思議な感覚。</li><li>・面白かった。学校に来たくなる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・スポーツをしてみたい。</li><li>・コンビニの店員の体験をしてみたい。</li><li>・どこかの場所に行ってみたい。</li></ul>

## 研究成果と課題

### 成果

- ・不登校生徒が教室や別室、適応指導教室、外部機関を利用することで、学校等への復帰率が35%となった。
- ・学級への安心感や所属感が増し、相談しやすい雰囲気や居場所感を感じるという生徒の声が多く聞かれた。(学期の振り返りより)

### 課題

- ・不登校対応加配教員が配置される3年間が終了したため、新たに別室支援を行う人材を確保する。
- ・新たに不登校生徒を生まないために、小学校と連携した早期支援を行っていく。
- ・バーチャル・ラーニング・プラットフォームを活用し、生徒の居場所づくりに力を入れていく。